

平成 23 年 6 月 16 日

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合
(6 月 9 日(木))
アクションプラン関連の議事要旨

【各対象範囲の進捗状況について】

(主な意見)

(金澤議員) **イ－6**について、「災害から命を守る」項目の中で、放射性物質からの影響についても取り上げているが、誤解を与える可能性がある。高濃度放射性物質の処理や汚染についてはそうであるが、その他の低濃度放射性物質の問題については命の問題かということそうはいえない。健康関連としての項目立てとしてどうか。健康関連としては、他に被災地における医療問題への取組も考えられる。

(奥村議員) 検討する。**イ－7**の政策課題「競争的資金の制度改革」について、アクションプランは予算編成のプロセスであり、競争的資金の基金化のような予算の変化がないものをいれるのはどうか。重要であることは理解する。

(本庶議員) 予算の増額はないかもしれないが、基金化した新しい枠で概算要求はしなければいけなく、予算編成で基金化の枠組みを作ることは大事。

(奥村議員) 基金化の枠を増やすということであれば、極めて政治的な話ではないのか。我々の作業とアウトプットの結びつきがよく分からない。

(金澤議員) 政治的な問題ではあるが、それを主張しないと現実化しない。

(相澤議員) 現状案では将来の社会像と政策課題の間にギャップがある。政策課題が将来の社会像を実現するためのものであるという観点から、どうであるのかということではないのか。

(本庶議員) 科研費補助金は、基礎研究の根幹であり、評価や成果発信等とパッケージにした制度改革をきちんとすることが重要。

(相澤議員) 政策課題のネーミングを検討すべきではないか。

(金澤議員) 評価制度のあり方は人材育成にも関わるものであり、政策課題をもう少し、広いネーミングにすべき。

(中鉢議員) グリーンイノベーションについて、この4つの政策課題の並び方がどうか。分散エネルギーというと、他と比べて個別的。科学技術にはそぐわない言葉かもしれないが、例えば産業界では、創エネと新エネと省エネと蓄エネといった呼び方がある。また、基幹エネルギーについてはエネルギー戦略の見直しがあり、風向きが違うかもしれない。非連続的な技術革新を目指す長期の方策であればよいが、現状は連続的な研究開発が中心ではないか。アクションプランに入れるかどうかについて、そういった整理の仕方もある。

(相澤議員) 分散エネルギーにも、蓄エネが入っているが、その表現の方がわかりやすいかもしれない。表現については検討したい。

【パブリックコメントについて】**（主な意見）**

（本庶議員）昨年は、パブコメに入る前に有識者や各省とも入念に調整し、一定規模の施策が提示されることを前提で出している。今年は、各省の予算規模が不透明であり、同じ進め方は困難ではないか。可能性のあるものを候補として出して、パブコメを踏まえて各省等と協議し、その中から選択するか。それとも、不確定要素があってもパブコメ前に柱を決定してしまうか。

（相澤議員）昨年のように先に個別施策まで固めるのは難しいのではないかと。現在の状況では、来年度の概算要求に関する政府方針が固まらないと思うが、科学政策の大きな方向性だけをまとめるということではよいのではないかと。

（阿久津政務官）相澤議員の意見のとおりである。政権移行期でもあり、予算編成については、震災への対応をどのように考えていくかもあり、少し遅れることになる。

（奥村議員）復興・再生で掲げているものもあくまで検討の候補である。何らかの形で、不確定な要素もあるということを前提として出し、それを踏まえたパブコメを行うべきではないかと。

（相澤議員）意見を踏まえ、総合科学技術会議として重要と考える方向性を、検討過程という前提で、パブリックコメントで提示していく。

（結果）

- ・平成 24 年度アクションプランについて、パブリックコメントに向け、検討を進めることとする。